

# エコミュージアムあしおのガイドの育成

代表者：社会基盤デザイン学科 青木達也

協力者：足尾地域の産業遺産の保存・活用と環境学習推進協働会議

## 1. 足尾の町とプロジェクトの概要

### (1) 足尾銅山の歴史とまちづくりの経緯

1610年に農民によって銅が発見され、足尾はその後、江戸幕府の直轄管理の銅山と栄えていくことになる。銅の産出に伴い足尾は「足尾千軒」と言われるほどの繁栄ぶりを見せた時期があった。しかし、時代とともに産銅量も減少し、明治時代入るまで足尾は衰退していた。

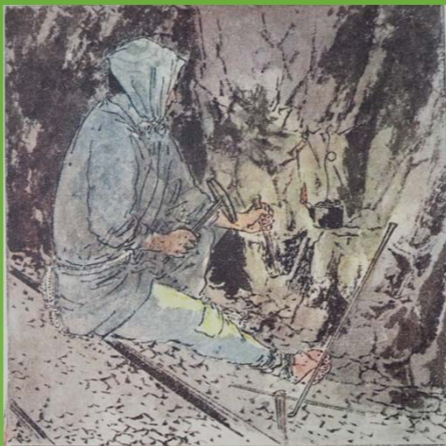


図1. 足尾の坑夫

明治10年になると、衰退していた足尾銅山は古河市兵衛へと払い下げられた。そして明治14年以降、次々と富鉱脈が発見され、それに伴い西洋の鉱山技術も導入されていった。産銅量は日本一となるが、銅山からの廃棄物により鉱毒問題が勃発、田中正造によってこの問題は大きく知られることとなる。そして現代に至るまで、足尾町と言えば「足尾銅山」、そして「足尾鉱毒事件」として人々に印象付けられることとなった。このように足尾銅山と共に歩んだ足尾町は、昭和48年の足尾銅山の閉山に伴い、「雇用の減少」や「人口の流出」の危機を迎えることとなった。町の発展を「古河機械金属への依存」から、町の政策による「企業誘致」や「観光産業の発展」で担うこととなった。このような折の平成4年に廃棄物の最終処分場を建設しようとする計画案「ガイア足尾計画」が民間企業等により提示され、足尾町は「雇用の創出」のために「廃棄物処分場の建設」を受入れるか、その他の道を選ぶべきか選択を迫られることとなった。そして、足尾町はこの計画を跳ね除け、「観光産業の発展」に大きく重心を傾けることになった。こうして町の特有の自然環境や足尾銅山の産業遺産を資源とした「エコミュージアム構想」によるまちづくりが進められることとなった。



図2. 古河市兵衛



図3. 田中正造

この「エコミュージアム」を成り立たせるために必要な担い手として「ガイド」という役割があるが、人口流出および高齢化の激しい足尾町においてはその担い手が自然発生的に現れることは期待できない。そこで、町では今年度より広く募集をかけて人材を集め、育成し、最終的にはボランティアとして足尾のまちづくりに貢献して頂く人材を育てるといった試みを始めている。本プロジェクトの目的はこれらの活動を専門知識や技能により支援し、成功に導くことにある。

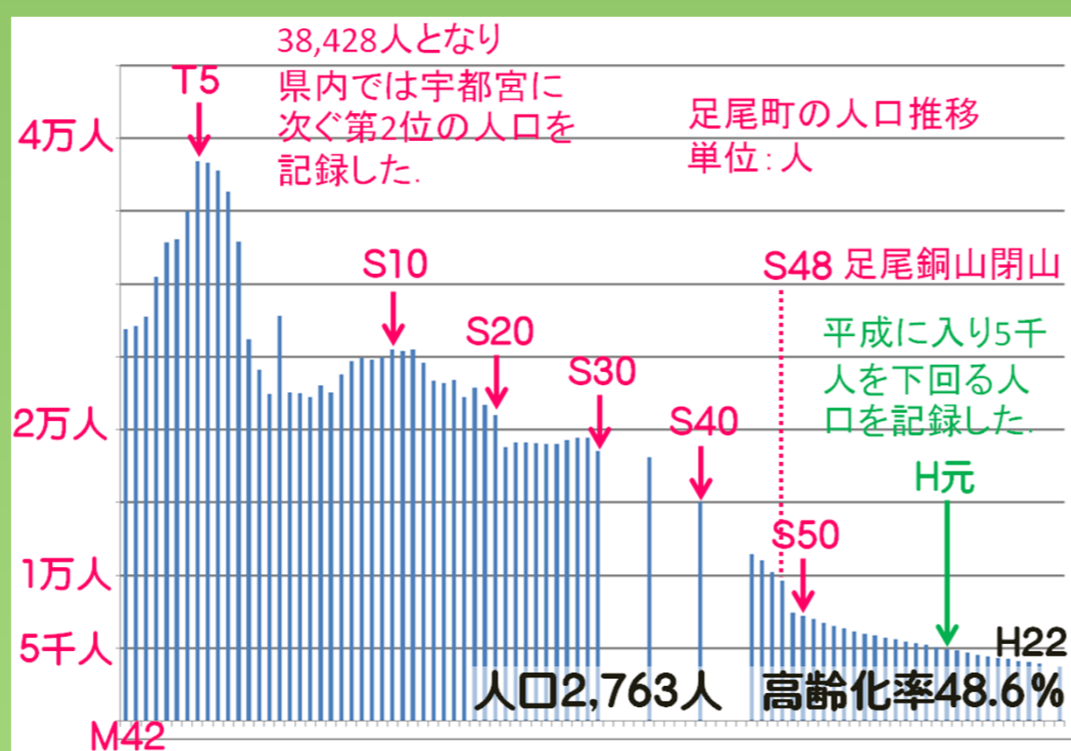


図4. 足尾地域の人口の推移



図5. ガイア足尾計画

### (2) プロジェクトの背景と目的

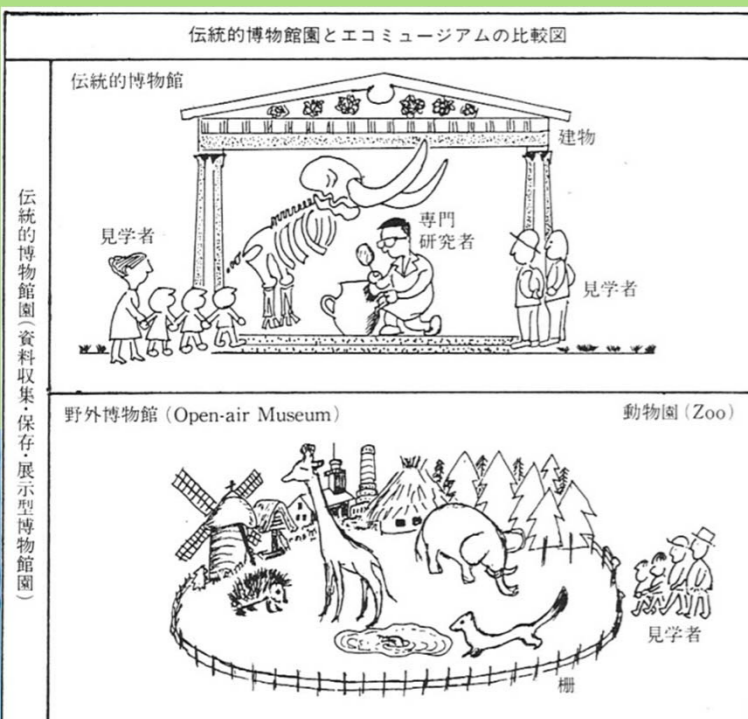


図6. 博物館と動物園

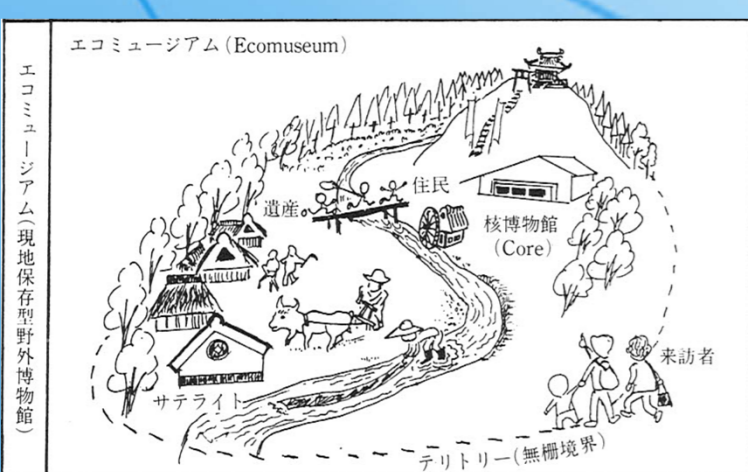


図7. エコミュージアム

エコミュージアムとは、地域で受け継がれてきた特有の自然環境や文化的および歴史的環境を資源として研究・保存・紹介・説明する博物館で、その展示エリアは屋内外を問わずその地域全体となる。

この「エコミュージアム」を成り立たせるために必要な担い手として「ガイド」という役割があるが、人口流出および高齢化の激しい足尾町においてはその担い手が自然発生的に現れることは期待できない。そこで、町では今年度より広く募集をかけて人材を集め、育成し、最終的にはボランティアとして足尾のまちづくりに貢献して頂く人材を育てるといった試みを始めている。本プロジェクトの目的はこれらの活動を専門知識や技能により支援し、成功に導くことにある。

## 2. エコミュージアムあしおの資源

「エコミュージアムあしお」は特別天然記念物に指定されているニホンカモシカやコウシンソウなどの他、足尾銅山の歴史を物語る産業遺産や環境対策の歴史を学べるフィールドなどの資源で構成されている。



図8. ニホンカモシカ



図10. 製錬所跡



図9. コウシンソウ



図11. 田中正造と浄水場

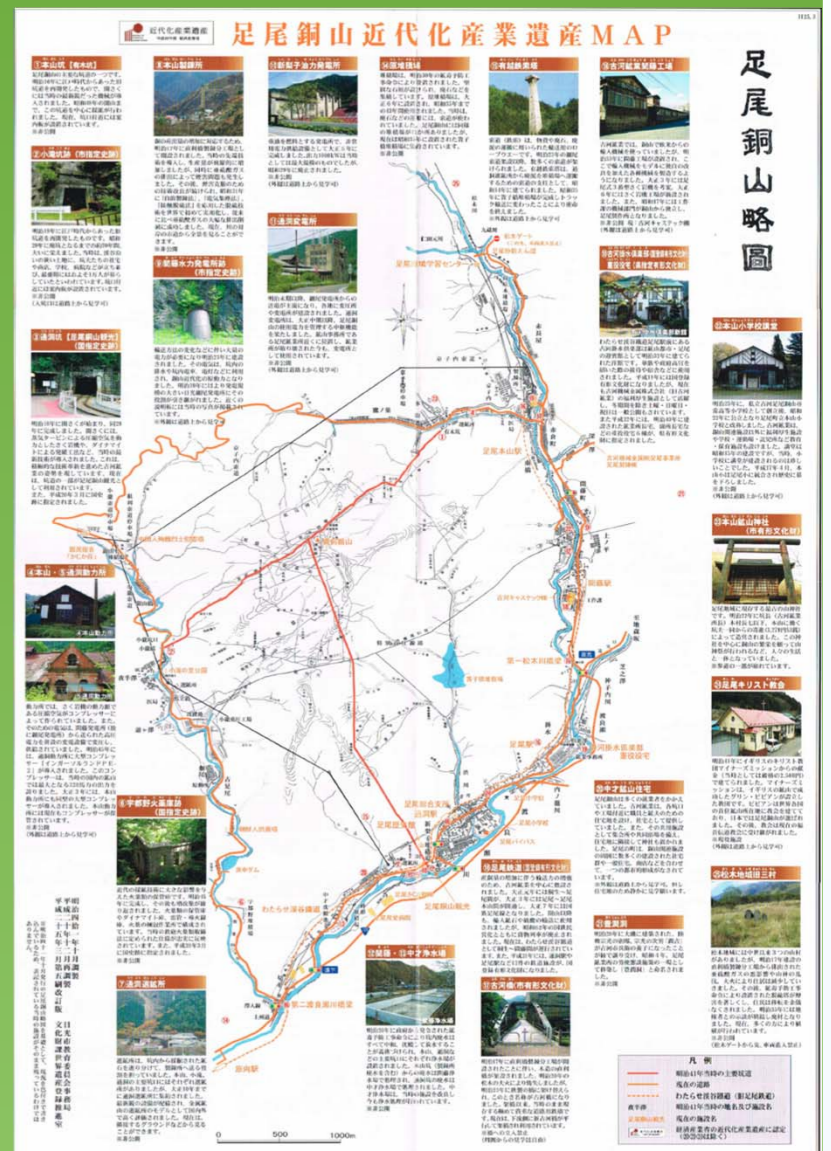


図12. 産業遺産MAP



図13. 煙害地（松木地区）



図14. 松木地区での植樹活動

## 3. ガイド育成事業

現在、「日光市足尾行政センター」、「NPO足尾に緑を育てる会」、「NPO足尾歴史館」、「足尾まるごと井戸端会議」、「足尾銅山の世界遺産登録を推進する会」、「古河機械金属株式会社」、「宇都宮大学」に所属するメンバーにより「エコミュージアムあしお」を推し進めるための組織「足尾地域の産業遺産の保存・活用と環境学習推進協働会議」（略称：足尾協働会議）が立ち上げられており、この組織が中心となってエコミュージアムに関わる各種活動に関する対応・方針が調整されている。今年度の「ガイド育成事業」もここでの決定に基づき進められている事業である。

今年度は日光市民全体に対して新たなガイドの募集を行い、その応募者に対して「あしお歴史講座」を5回開設し、ガイドとして活動するために必要な基礎的な知識や技能を伝えている。

今後は、この講座の修了生に対して「修了証」を授与するとともに、来年度以降に開催予定の「本格的ガイド養成講座」への移行を検討している。

平成28年度 事業報告  
「あしお歴史講座」における  
参加者の意識調査結果

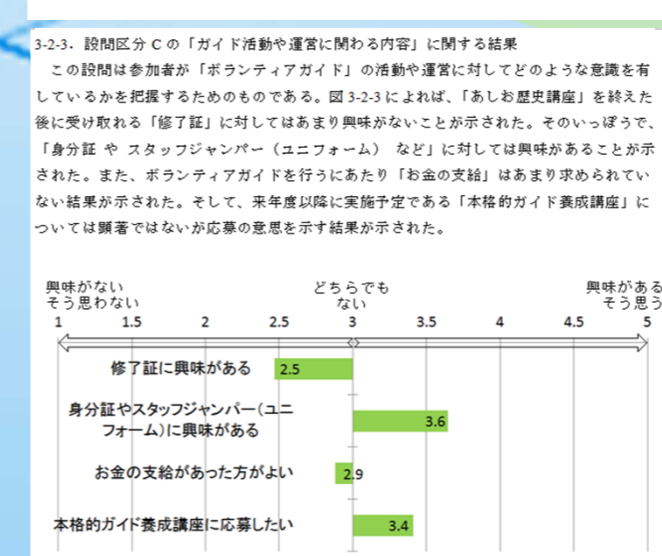


図17. 参加者の意識調査



図15. 第1回講座



図16. 第3回講座

なお、今回のガイド事業の事後評価をし、今後のまちづくりの戦略に繋げるため、今回の講座の参加者に対する意識調査を実施した。これにより参加者はガイドの身分を示す「ユニフォーム」や「身分証」に対して大変興味を示していることなども明らかにされた。宇都宮大学の調査結果を踏まえ、足尾のガイド育成事業は新たなステージへと突入する。